

ジャズコース

試験科目	内容	注記	A O	給 費 生	公 募 推 薦	一 般 前 期	一 般 後 期
1	主科実技課題 下記の「主科実技課題詳細（楽器別）」の中からいずれかを選択する ※入学後に主専攻とする演奏実技で受験すること	※ピアノ、ドラムセット、大型楽器以外は各自持参すること ※自由曲において4分を超える場合は、途中で止める場合があります。 ※ドラムスのセッティングの変更は最小限にとどめること。	○	○	○	○	○
2	音楽理論 以下の(1)または(2)のいずれかを選択する (1)ポピュラー音楽理論（筆記試験60分。インターバル（音程）、調号とスケール、コードネーム、移調） (2)楽典（筆記試験60分）		○	○	○	○	○
3	主科面接	主科実技に対する試問および志望理由書をもとにした面接	○	○	○	○	○
4	AO面接	※AO面接は主科面接の中で行う。	○				
5	給費生作文	指定する作曲家のうち一人を選び、その伝記を読んで、試験当日に課題作文を書く。伝記は単行本に限り、辞書・辞典類の項目は認めない。当日参照不可。／60分 詳細は●ページに記載。		○			
6	給費生面接			○			
7	一般科目	A. 本学で行う以下の一般科目(a)~(c)の中から1科目を選択して受験（45分） (a) 英語（I・II） (b) 国語（国語総合、国語表現 I、ただし古文・漢文を除く） (c) 数学 I					○
		B. 大学入試センター試験の成績を利用する以下の(a)~(f)の中から2教科2科目を選択 (a) 国語 (b) 地理歴史 (c) 公民 (d) 数学 (e) 理科 (f) 外国語	※「国語」「地歴」「公民」「数学」「理科」「外国語」について3教科・3科目以上受験した場合は、高得点の科目を可否判定に使用。判定の際、各科目毎100点満点に換算。可否判定に使用できる科目の詳細については38ページを参照。				○

主科実技課題詳細（楽器別）

●ピアノ

- (1)与えられたコード進行による演奏（両手伴奏スタイルによる。決められたリズム以外は自由）。コード進行楽譜参照。
※次ページ「コード進行楽譜」参照。
- (2)自由曲1曲（ジャズスタンダードまたはポピュラー曲。アドリブ（小節数は任意）を含める。暗譜でなくてもよい）。
※ソロ演奏または音源による伴奏付き。音源の種類は、CDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。

●ギター

- (1)与えられたコード進行による演奏（コードバックイング。決められたリズム以外は自由）。
※次ページ「コード進行楽譜」参照。
- (2)自由曲1曲（ジャズスタンダードまたはポピュラー曲。アドリブ（小節数は任意）を含める。暗譜でなくてもよい）。
※ソロ演奏または音源による伴奏付き。音源の種類は、CDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。

●ベース

- (1)与えられたコード進行による演奏（ベースラインを演奏。決められたリズム以外は自由）。
※次ページ「コード進行楽譜」参照。
- (2)自由曲1曲（ジャズスタンダードまたはポピュラー曲。アドリブ（小節数は任意）を含める。暗譜でなくてもよい）。
※ソロ演奏または音源による伴奏付き。音源の種類は、CDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。

●ドラムス

- (1)基礎打ち
1つ打ち、2つ打ち、5つ打ち、7つ打ち、ロール $p < f > p$
※試験場において指定。
- (2)パターン演奏
♩=120、16小節、クリックに合わせて演奏する。内容は自由。
- (3)自由曲1曲（暗譜でなくてもよい）。
※音源による伴奏付き。音源の種類は、CDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。

●サクソフォーン

- ソプラノ、アルト、テナー、バリトンいずれも可
- (1)スケール
※メイジャースケールおよびマイナースケールの全調の中から、試験場において指定（マイナースケールはハーモニックマイナースケール）。16分音符で全音域を使いスラーで演奏（♩=120以上、暗譜）。
 - (2)自由曲1曲（ジャズスタンダードまたはポピュラー曲。アドリブ（小節数は任意）を含める。暗譜でなくてもよい）。
※ソロ演奏または伴奏付き。伴奏の種類は、ピアノ伴奏または音源による伴奏とする。ピアノ伴奏の場合は伴奏譜を、音源による伴奏の場合は演奏する楽器を抜いたCDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。

●トランペット

- (1)課題
以下の譜例に従い演奏すること。Dm、Em、Fmの中から試験場において指定。暗譜。



- (2)自由曲1曲（ジャズスタンダードまたはポピュラー曲。アドリブ（小節数は任意）を含める。暗譜でなくてもよい）。
※ソロ演奏または伴奏付き。伴奏の種類は、ピアノ伴奏または音源による伴奏とする。ピアノ伴奏の場合は伴奏譜を、音源による伴奏の場合は演奏する楽器を抜いたCDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。

●トロンボーン

- (1)課題
以下の譜例に従い演奏すること。Dm、E♭m、Fmの中から試験場において指定。暗譜。



- (2)自由曲1曲（ジャズスタンダードまたはポピュラー曲。アドリブ（小節数は任意）を含める。暗譜でなくてもよい）。
※ソロ演奏または伴奏付き。伴奏の種類は、ピアノ伴奏または音源による伴奏とする。ピアノ伴奏の場合は伴奏譜を、音源による伴奏の場合は演奏する楽器を抜いたCDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。

●ヴォーカル

- (1)反復歌唱
※ピアノで演奏されたメロディーを聴き取り（2小節程度、1オクターブ半の範囲）、そのメロディーの反復唱（「ラ」で歌唱）を行う。その後で、そのメロディーの移調唱を行う（1回）
- (2)自由曲1曲（ジャズスタンダード曲。アドリブ（小節数は任意）を含める。原語で暗譜）
※アカペラまたは伴奏付き。伴奏の種類は、ピアノ伴奏または音源による伴奏とする。ピアノ伴奏の場合は伴奏譜を、音源による伴奏の場合はヴォーカル（主旋律）を抜いたCDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。ただし、ピアノまたはギターによる弾き語りも可。マイクの使用は不可。